

小児等の脆弱性を考慮したリスク評価検討調査

51百万円（25百万円）

環境保健部環境安全課環境リスク評価室

1. 事業の概要

(1) 小児における特殊性を考慮した暴露評価手法の開発

- ・小児の行動等の特性(おもちゃや汚れた手を容易に口へ入れる等)に着目し、化学物質の暴露、影響について文献等を収集、取りまとめる。
- ・生活スタイル、食事等についてのアンケート調査等による疫学研究。

(2) 国際シンポジウムの開催

国内外から専門家を招聘した国際シンポジウムを開催し、国内の小児環境保健に係る人材育成を図る。

(3) 有害性評価及び暴露モデルの構築

小児への影響が疑われている化学物質から対象を選び、小児に対する有害性について文献調査を行うとともに、小児の特性に着目した化学物質の暴露について文献収集の成果及びアンケート調査等による疫学研究の成果を基に、コンピューターを用いて暴露量を推計するシミュレーションモデルを構築する。

(4) 小児環境保健に関する懇談会の開催

小児環境保健分野における今までの知見、今後の課題について有識者による検討を行う。

2. 事業計画

手法の開発（平成9～17年度）、シンポジウム開催（平成14年度～）、有害性評価（平成17～20年度）、暴露モデル構築（平成17～19年度）、懇談会開催（平成17年度）

3. 施策の効果

小児等の脆弱性を考慮したリスク評価を行い、指針値等を設定する必要性を検討する際の基礎資料を得る。

小児等の脆弱性を考慮したリスク評価検討調査

1. 背景

小児は成人に比べて特殊であるため、成人のリスク評価手法を用いることができない。

暴露媒体(大気、水、土壌など)の取り込み量(呼吸量、飲水量など)が異なる。
暴露経路が異なる(オモチャや汚れた手を容易に口に入れることなど)。
感受性が異なる(神経系や免疫系が発達途中。代謝機構が成人と異なる)。

2. 事業概要

